

いのちの講座

歴史にはこう記されるだろう。この変革の時代において、もっとも悲劇的であったのは、悪人たちの辛辣な言葉や暴力ではなく、善人たちの恐ろしいまでの沈黙と無関心であった、と。 マルチン・ルーサー・キング・ジュニア

目次

- 巻頭言★放送法の公正中立とは……1
- 遺伝子組み換え★遺伝子組み換え (GM) 最新ニュース……2
- ことば★羽仁五郎のことば……4
- 新聞報道★新聞報道の矜持……5
- 放射能汚染★放射能汚染——東京でも福島でも……5
- 消費者行政★劣化する消費者行政：上林裕子……7
- 遺伝子組み換え★米国連邦議会で州の遺伝子組み換え (GM) 表示を無効にする
DARK 法案が廃案に！……8
- TPP★TPP 批准阻止で次世代に負の遺産を遺さない……9
- 表紙絵解説★アズキ……10

巻頭言 放送法の公正中立とは

安倍政権になってメディアへの政治介入が露骨に行われるようになった。14年の衆院選前には、「NEWS23」に生出演した安倍首相が、街頭インタビューの声に偏りがあると批判し、「報ステ」のアベノミクスの取り上げ方を自民党が文書で批判、「公平中立」を求めた。昨年4月には、「クロ現」と「報ステ」の内容をめぐる自民党が局幹部を事情聴取。

新年度、これらの報道番組のキャスターらが降板する。政権が直接関わってなくても政権の意向を忖度するメディアトップの働きかけがあるのかもしれない。なにせメディアトップが安倍総理と会食する仲では報道の自由を守る責任を負っているという矜持は持ち合わせないと見るべきだろう。そして、2月9日、高市早苗総務相は「放送法」第4条(の2項「政治的に公平であること」)に違反していると政府が判断した場合放送電波停止ができると言及した。これまで4条の規定は努力規定と解釈されてきた。ところが高市発言はこれを法規範(義務)とし、これに違反したら電波停止を命じることが



イラスト：Akiko

できると発言したのだ。高市氏の発言は戦前回帰、放送を政府の統制下に置くと言っているに等しい。戦前、放送禁止事項の通達が出され言論統制の末に太平洋戦争が始まり、メディアは戦争遂行するためのものとなった。政府は放送に関与してはならないのだ。

法規範はもとより努力規定としても放送に「政治的公平」を掲げること自体、憲法違反と思う。

「政治的中立・公平」の言論は意味がない。現実、人々はどちらかを支持したり、また批判したりする。ひとりひとり偏っていて中立はない。「中立」と言う人がいるならそれは何も考えていないということだ。多面的で自由な言論に触れることによって自分の考えを修正し理解を深め判断力を高めて行く。メディアは国民から知る権利を託されているのだ。だからメディアの自由を政府は侵してはならない。メディアの倫理を守る第三者機関として番組審議会、放送倫理・番組向上機構がある。

なによりも深刻な危機は政権が言う「政治的公平」は「政権批判を許さない」という意味で使われていることだ。政治家はことばがいのち。なのに安倍政権ではその

ことばがひっくり返り、ことばが殺されている。「積極的平和主義」は「積極的戦争参加主義」のことだし、「一億層活躍社会」は「一億死ぬまで低賃金労働社会」の意味だって気づいていますか。TPP協定で要求される「透明性」とは審議会に利害関係者(外国企業)を参加させ、決定プロセスに介入できるようにするという主権売り渡しの意味なのだ。

政権の広報と化した犬HKの北朝鮮のミサイル(?)発射報道の酷さを見よ。「北朝鮮は水爆実験に続き、今度は長距離ミサイル実験だ」と煽り、日本が照準でもないのに自衛隊が宮古島などに迎撃ミサイルを物々しく配備する様子を報道。北朝鮮の脅威を煽るのにどれほど電波を使ったか。だが内外の軍事専門家達は北が事前に発表した通り宇宙ロケットと見ている。衆人環視の中で、高い発射塔の横に2週間以上費やして組み立て3日間かけて燃料を充填した。こんなものは、ミサイルのはずがない。発射準備をしている間に空爆によって破壊されるからだ。(安田節子)

遺伝子組み換え

遺伝子組み換え (GM) 最新ニュース

●第3のビールや発泡酒にGMトウモロコシ

毎日新聞(2015年11月10日)によると、毎日新聞が実施したアンケートで「発泡酒」や「新ジャンル」(いわゆる第3のビール)にGMトウモロコシ由来の原料(液糖)が使われる実態が明らかになった。

現在、日本では加工用のトウモロコシをほぼ全て輸入で賄っている。日本の最大の輸入先である米国では栽培の約9割がGMのため、輸入トウモロコシの大半がGMであり、家畜の餌や液糖などに使われている。

GMトウモロコシ由来の液糖(コーンシロップ=異性化糖(別名「ぶどう糖果糖液糖」「果糖ぶどう糖液糖」))は清涼飲料水はじめ多くの加工食品や菓子などに使用されているがGM表示はされていない。

日本のビールは「コーンスターチ」を原料に含む製品が主流だが、ビール会社はコーンスターチはGMではない分別したトウモロコシを使用する慎重な姿勢を見せてきた。

10月に毎日新聞社が国内ビール大手4社(アサヒビー

ル、麒麟ビール、サッポロビール、サントリービール)にアンケートをしたところ、

ビールは、原料にトウモロコシを使わないサントリーを除き、3社とも分別された「非組み換え」トウモロコシを使用。

しかし、発泡酒と新ジャンルでは4社ともこれまでは非組み換えトウモロコシからできた液糖を使っていたのが不分別(GM)に切り替えていたのだ!

その時期について、サントリーは「2015年2月製造分から」、アサヒは「3月から」、麒麟は「2015年に入って順次」。サッポロは時期を明らかにしていない。

ビールに比べ価格の安い発泡酒や第3のビールの原料(液糖)が、コストの安いGM不分別品に切り替えられ、消費者の知らぬ間にGMになっていたのだ。

表示が義務付けられていないから消費者は知らずに飲んでいる。

食用油や液糖などGMの使用量が圧倒的に多い食品がGM表示を免れているのは法の不備、行政の不作